

絵本の家

「ゆきぼうし」の四季・夏



山のおじさんとおばさんの 絵本の家「ゆきぼうし」

昨年（平成八年）八月、守門村大倉にオープンした、小さな小さな絵本の家「ゆきぼうし」。

そこは、「山のおじさん」と、「山のおばさん」の情熱と、子どもたちの夢と歓び、そしてたくさんの人々の応援とがあふれていて、ピチピチ、キラキラと輝いている素敵な世界です。

これは小出郷広域事務所組合発行の「ふるさと市町村圏こうほうーかじっか」第8号で紹介された「子どもと自然と絵本ーたのしいことがいっぱい／小さな小さな絵本の家「ゆきぼうし」のリード文だ。続いている紹介記事の中で「山のおじさん」大塚中（あたる）さんは「白い光の中で絵本を読んだり、自然を散策したり、絵本の世界と、自然の世界を行

ったり来たり、楽しみながら感性と想像力を豊かに広げて欲しい。

絵本の世界は館長（妻の千恵さん）が、自然の世界は私の分担です。

楽しい楽しい「ほうの木の森」を作ってみなさんをお待ちしています。」と呼びかけている。

雪もとけた近くの山肌に明るく芽ぶくブナの若葉が燃える景色を大塚山荘の二階の窓から眺めながら中さんはポツリ、ポツリと「山のおじさん、山のおばさん」の歩んできた道を語ってくれた。

右手に絵本の家が、眼下にはこつこつと手作りで作ってきた森のステージと子どもたちが思い思いに腰を掛ける観客席がみえる。そのまわりが「ほうの木の森」だ。

ステージの脇の湧き水の池には夏にはたくさんさんのトンボや蝶が舞うという。

紡ぎ合う人・自然・文化

「マイホーム主義が嫌いでね。いつもたくさんの人と自然と触れ合える小さな山小屋を須原スキー場の脇に作ったんだ。青年たちとスキークラブをつくったりして……。黒崎の新居は借家だった。今から二十三年前になるかな。」

その山小屋が郷土の重要文化財になった目黒邸の庭の拡張工事で立ち退きをせまられ、山小屋をつくってくれたアラシ建設さんのご厚意でここに移ってきたの。だからここは第二の大塚山荘というわけ、その間きびしい政治の世界にいて体を壊し、パーキンソン病の治療もかねて住み始めて十年の月日が流れているよ。みなさんに応援していただいて隣にたてた絵本の家はまた二年目だけど。

ぼくはそんなわけで力んでなにかにしたいとおもってはじめてたのでないの。

人があつまり出会い、その触れ合いと自然との交流の場を提供している。そこに、なにがしかの文化の香りをもたせたいそんな気持ちかな。」

一人が力んで頑張る時代ではなく、一人一人が心の深いところで育んできたやりたいことを力まず持ち寄り、それを糸を紡ぐように組み重ねていくと何かができていくという共同の時代がはじまっているという彼の思いが静かに伝わってくる。

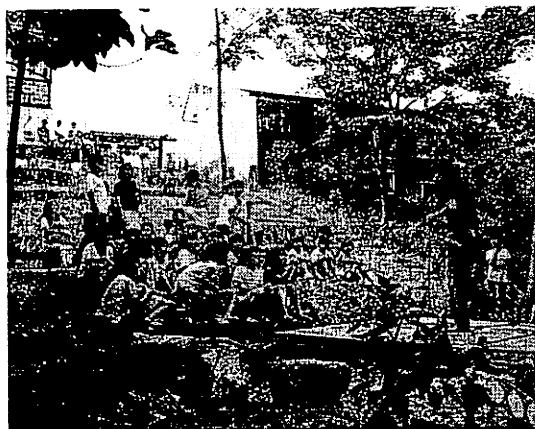
後述するようにここには県内各地で活躍している地域の文化活動の出会いがある。また、都会っ子が虫と花と雪のぬくもりを、「美しい日本の四季のうた」を実感できるふるさとでもある。そして、なによりも素

敵なことは村のこどもたちが心を遊ばせることのできるいいの家なのだ。

夏・夏休み

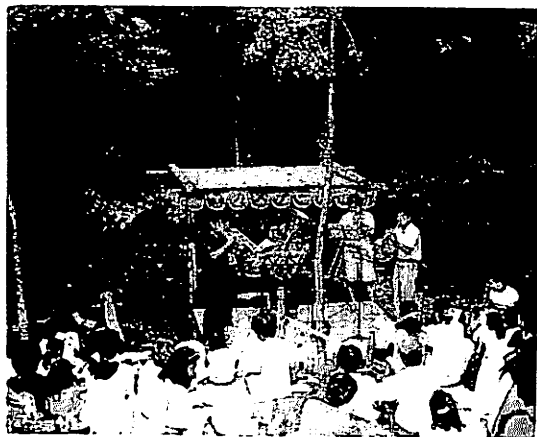
たのしいこといっぱい

「絵本の家・ゆきぼうし」は深い緑につつまれています。夏の虫たちも元気いっぱい飛びかっています……



一足早く夏休みを迎えた埼玉の子どもたちが、夏休みのよろこびを車にのせてやってきました。緑の中でいっぱい遊んだ子どもたちは絵本の家で好きな本をみつけ、夢中でよんでいました。お父さんのひざの中に、ちょこんと入った子どもが、お父さんのよむお話に聞き入っている姿も見られました。」。

(昨年夏の「ゆきぼうし通信」より)



楽しい企画がいっぱい

昨年の夏、絵本の家「ゆきぼうし」の展示室では宮沢賢治絵本展が開かれた。そして八月四日(日)の夜、「ゆきぼうし」の庭で宮沢賢治作の「雪わたり」アニメ「はらべこのあおむし」が上映された。

八月二十四日(土)は絵本の家の夏祭りだった。

第一部は森のゲーム大会。

絵本の家の直ぐ下のほうの木が森が舞台だ。子どもたちは自然に関するクイズ、森の木の葉や花で着飾るファッションショウを楽しんだ。森のティータイムのと第三部は森のステージ「ゆきぼうし通信」で参加者を募集したら長岡から金管楽器のアンサンブルが参加した。夕暮れの森に高らかにホルンの音がなりひびく。十

日町からはバネルシアターの人達、柏崎からむかしばなしの人達がきてくれた。地元の子どもたちも出演した。

絵本の家の館長さん大塚千恵さんは小学校の先生をやめてここに定住して二年目だ。たくさんの人達にささえられてのこの生活に、学校生活から解放たれて、この絵本の家につどう子どもたちの顔のかがやきに、自分の教師としての生活を深く問いなおさせられているという。

絵本の家の今年の夏の企画

絵本と自然と人との 出会いを求めて

*六月八日(日) 九時半より

風あげ大会

*八月二十三日(土)

絵本の家の夏まつり

*五月二十四日より六月十五日まで

「鳥風展」制作者市川勝志郎氏

(新潟鳥だこの会副会長)

＊六月二十一日より七月二〇日まで

「雪国のおくりもの」の原画展

東頸城広域まちづくり委員会が編

纂(新潟日報事業社発行)した童

話集の原画は、堀葉月など地元新

潟の絵本作家たちの作品

＊八月十日より九月七日まで

川端誠氏(上越市出身の絵本作家)

の原画展と講演会(九月六日)

(「ゆきぼうし通信」より)

「川端さんの代表作『森の木』(リ

プロボート)は力みなぎる絵本です。

読んでいくうちに、木の精モクが

のりうって来るような感じがします。

新しい材料を使った立体的な表現も

力があふれています。原画をみたひ

この話では「絵本もすごいけど原画

はそれ以上にすごい迫力」だそうで

す。」

絵本の家 記念絵はがき その1 完成

1周年を記念して、「ゆきぼうし」の絵はがきを制作しようと、ポストカード委員会を中心に仕事をすすめてきました。

この程完成し、8月1日より販売することになりました。

この1年、画家 田島征三氏を始め、若いスタッフたちが「ゆきぼうし」のために製作した作品の中から10点を選び、カード化したものです。

絵本の家「ゆきぼうし」のテーマ、「子どもと自然と絵本」を子どもの視点でとらえ、夢の世界に広げたものになっています。

絵はがきは、2組で5枚上がり、5枚1組で400円です。バラ売りもいたします。1枚100円です。どうぞお買い求め下さい。

- 第1集
- | | |
|------------|------|
| 井と井銅い | 田島征三 |
| 赤風柳風車 | 鈴木寿二 |
| ゆきぼうし | 小山明子 |
| フーのきの森 | 中島龍子 |
| ゆきぼうしのある風景 | 宇直 |

- 第2集
- | | |
|-----------|-------|
| わすれっぽけの | 田島征三 |
| ハートボイス | 小田真界吉 |
| 絵本の中の動物たち | 長屋雅樹 |
| うきはひくれんぼ | 市井 希 |
| ゆきぼうし | 坂凡公子 |

